

『おから猫神社と名古屋の歴史こぼれ話』

序 おから猫とは

1. 東照宮祭当日の大火事から人々を救った町奉行、田宮半兵衛
2. 葛飾北斎の弟子、牧墨僊
3. 明倫堂に学んだ宇都宮三郎
4. 金鯨を取り戻せ！ 伊藤次郎左衛門

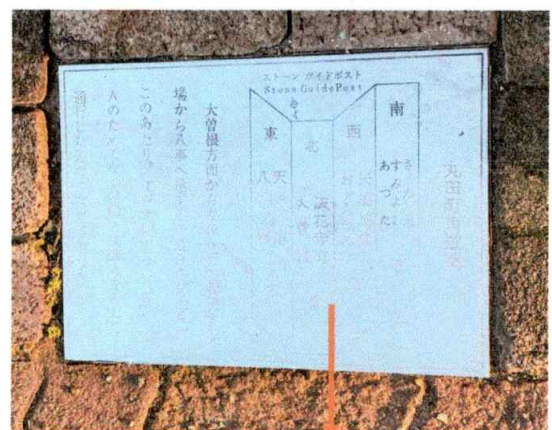
「おからねこ」とは
大直禰子(おおただねこ) 神社の俗称



出典: 沢井鈴一『俗名でたどる名古屋の町』Network2010より
2010年6月18日記事の写真



中区丸田町の交差点
南西角にある道標



東	北	西	南
八天道	大曾根	おからねこ	あつた
	法花寺町	矢場地蔵	すみよし
			さん王

実在の登場人物 その1

田宮 半兵衛

町奉行を20年勤めた。

金明録―猿蓑庵日記―(名古屋叢書三編 第十四巻)より

(文化八年四月)

○御祭礼、雨天統延引之処、廿日より快晴、廿一日に渡る。

(中略)

御当日、四ツ半比より、上島裏南の町家火事。雲門寺筋、西行当たりより出火。四軒道通りへ出、下は沢井筋迄。但し船大工にて留る。上は上島筋迄焼抜、西は信行院筋東側迄。但し信行院向長屋は一棟残る。同下は沢井筋迄焼る。西風はげしく大舟町へも焼抜、半丁余焼失。材木町辺、立木或は竹杯に飛火移り、もへし所多し。上町中通りより東迄、灰、火の子降り、下町より上町を見れば、黒煙り伏せて夕立雲に似たり。(中略)

拝見の輩は、御入府に付き、例よりは格別多く、遠境よりも来りし故、丸の内、片端、広小路、近年に覚へぬ賑わいなりしが、此騒動に崩れ立。又、本町通辻々并棧敷の見物ちりぢりに相成、騒立しが、御大切之御神事故、中々横切不相成、東側に見物の者共、甚難儀なりしに町御奉行、御旅所より早馬にて御厩へ馳ゆかれ候。道すがら御固めをとげとげと、大音声に呼わり被通行候故、辻々かためゆるまり、東側の者共皆々散乱して慌びあへり。(中略)

此日出火に付き、大切成御固を町御奉行田宮氏自身了簡を以ほどかれし事を、御棧敷へ伺公して、お詫び申上げられし所、御両家を始め御老中衆、殊の外称美せられ由、町々におゐても、諸人大切之程をかんじけり。

御日に、御誉の御言葉并御褒美被下置。

○廿二日、難有も、上の御仁恵にて、此度焼失の者共へ御金を被下置、御書付、左のごとし。

昨廿一日、御成先に於て、出火の様子、被為及聞召、御祭礼中之儀、在宿有間敷候付き、防火不行届、別而難儀たるべく候、不便之事な思召、正金百疋つつ焼失之者共へ被下置候。

奉行所

文化八年 四月廿二日

焼失之者共江

実在の登場人物 その2

まき ぼくせん

牧 墨僊

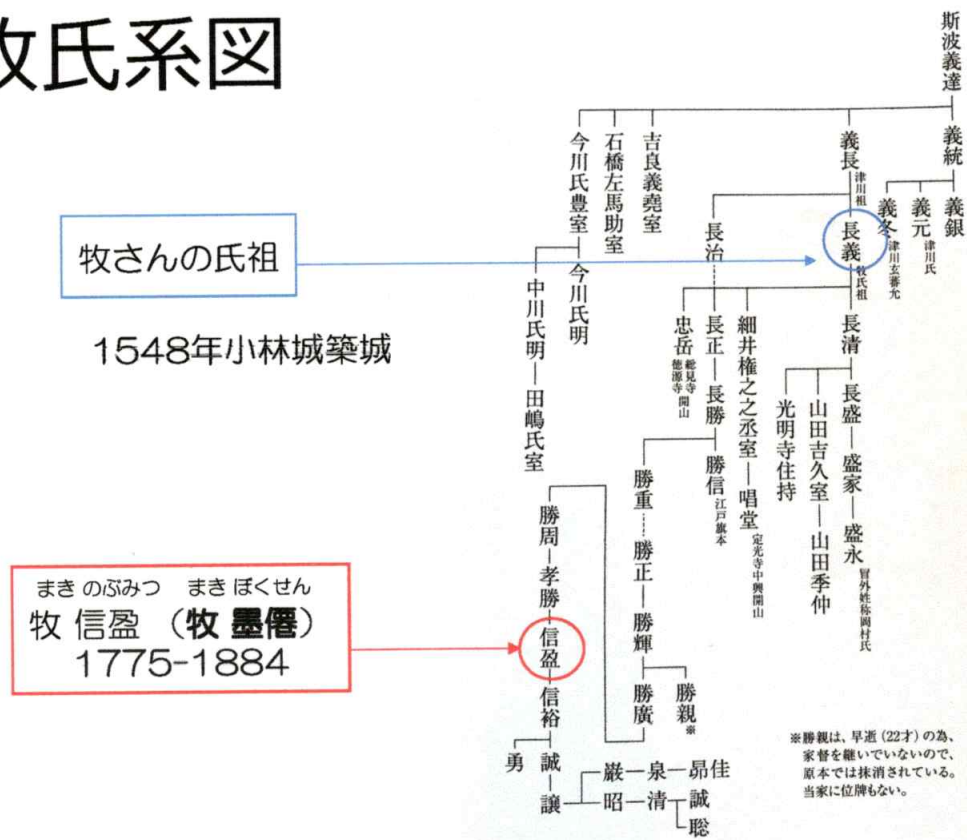
1775-1884



出展: 名古屋市博物館収蔵品データベース
『西王母図』 牧墨僊作
江戸時代後期

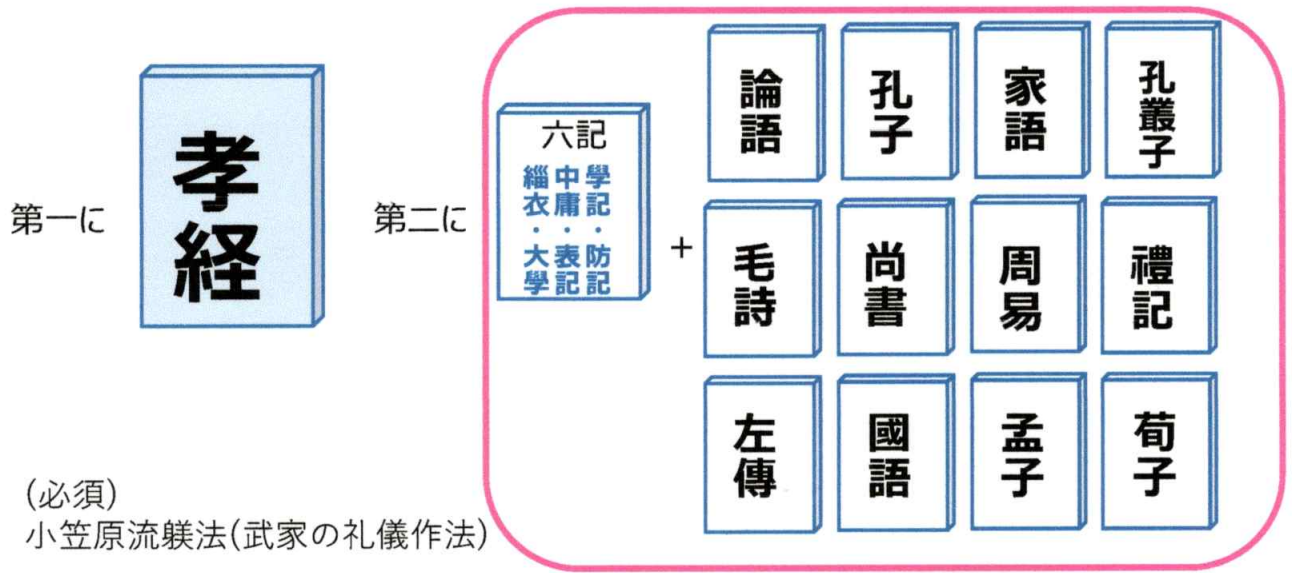
牧氏系図

【牧氏系図】



明倫堂に学んだ宇都宮三郎によれば

明倫堂のカリキュラム



(必須)
小笠原流躰法(武家の礼儀作法)

(選択)
音楽
射術
算術
馬術

毎月一回、**詩会**がある

(典拠:『宇都宮三郎経歴談』)



永照寺(羽島市)

羽島市指定有形文化財

永照寺本堂

この建物は、かつて尾張候の藩校であった明倫堂で天明七年(一七八七)に建てられたものである。

明治維新後廃藩置県となり明倫堂も廃止のため、聖堂も売却された。

明治六年福寿町平方の永照寺に移され、本堂に改造されたわけである。

永照寺本堂は現在、聖堂建築の遺構が極めて少ないおり建築史上、また儒教史上極めて重要なものといえる。

また江戸中期末の代表的遺構として、当時の建築技法を知るのによき資料となっている。

羽島市教育委員会

金鯨復旧運動の有志代表

- ・ 伊藤 次郎左衛門 (14代)
- ・ 岡谷 惣助(9代)
- ・ 関戸 守彦

嘆願書に何を書いたか？

有志総代による金鯨復旧の願書

(国立公文書館所蔵『御物金鯨名古屋城へ復旧ノ儀伺』より)

(読み下し文)

名古屋城金鷲尾掲揚の儀願

名古屋城天守金鷲尾は本邦一個の名物にこれ有り候ところ、明治三年十二月、旧名古屋藩に於て無用の長物云々の申し立てを以て貢納の義伺い済みの上該品を献納あい成り、爾来本邦の一奇物として各地の博覧場に陳列御差し許しあい成り候ところ、

当鎮台に於て、即今名古屋城御修営あらさせらるるか如きは以て古来の勝区名人の俸蹟を永遠に保存せらるるの御主意と拝察奉り、且

該城の有名なるは特に金鷲尾に因るものにして慶長以降全国の仰視するところなれば

該品の如き博覧場陳列中の一区たらんよりは寧ろ本城に還附して名区勝景を存せらるるの朝旨を表章あらせられたく、

常々人民挙て希望する処にして直ちに喜悅の色を生ずべくと存ぜられ候に付、右費用の義は私共初め県下有志の者より

適宜公納仕るべく候間、渥、御觀察特別の御議を以て、右金鷲尾復旧、名古屋天守へ御還附掲揚あい成り候様仕りたく、

此の段願い奉り候也

明治十一年六月
愛知県下第一区名古屋
鉄炮町老丁目九番地
有志惣代 岡谷惣助
同県下第老区名古屋
堀詰町老丁目拾番地
同 関戸守彦
同県下第老区名古屋
茶屋町三丁目三番地
同 伊藤次郎左衛門
茶屋町用係 五味結祿
鉄炮町用係 若山善右衛門
堀詰町用係 中井嘉十郎

愛知県令 安場保和殿

書面の通り願ひ出候也

明治十一年六月十日
第一区一等副戸長 吉川義剛
同区区长 吉田祿在

① 明治新政府は、
古来の勝区名人の旧跡等を
永く保存する

ことを、政策として
進めている

② で、あれば、
金鯨は、



博覧会場の一區画に陳列するより



名古屋城の屋根に置く

③

むしろ